

○『わが人生に歌あり 盲目のテナー・新垣勉』

新垣勉さん（一九五二〜）は沖縄生まれの盲目のテナー歌手である。生後間もなく助産婦の医療ミスで失明し、アメリカ人の父、日本人の母とも生き別れた。育ててくれた祖母も中学二年の時に亡くなり、天涯孤獨となった新垣さんは荒れに荒れた。その新垣さんを支えたのは一人の牧師をはじめ、多くの人との出会いと、大好きな歌であった。以前、本校生が文化教室でその歌声を聞き、感銘を受けた。

自分の人生をどう生きるか

自分は、新垣さんの強く生きている姿に感動しました。生まれもった盲目という障害がありながら、誰かのために生きているのがとても素晴らしいことだと思いました。人間はナンバー1を求めて、完璧に生きようとしていますが、ナンバー1になった所で誰かのためになれるのかという事が生じます。自分はナンバー1じゃなく、新垣さんのようにオンリー1を求めたいです。人はそれぞれ体、顔、性格も違います。その与えられた体で自分の人生をどう生きるか、自分のストーリーをどう作るかが大切だと思います。そうすることにより自分だけの、つまり唯一の人生を歩めます。人生は「良い人生にしてやる」ではなく「自分の人生をどう生きるか」という気持ちが大切だと思いました。また自分に与えられた人生をしっかりと生きていければいいのだと感じました。

（二年）

2. 輝いて生きる

○ボブ・ウィーランドさん

ボブ・ウィーランドさん（一九四六〜）はスポーツ万能のアメリカ人で、大リーグを目指していた。しかし、ベトナム戦争で両足を失い、夢は一瞬にして断たれてしまった。帰国し、人との出会いを通して新たな挑戦を始めた。それは世界の悲惨な子供たちのために募金しながら、アメリカ大陸五〇〇〇マイルを二本の腕で歩くということであった。

ボブさんのモットーは one step at a time（一歩ずつ、あせらずに）。また、ボブさんは「チャレンジすることがなければ、最高の瞬間を経験せずに人生を終えてしまうことになる」と語っている。

挑戦する大切さ

私は、ボブ・ウィーランドさんの映像を見て、ボブ・ウィーランドさんはすごく強い人なんだと思いました。戦争で戦友を失い、自分の足まで失くしてしまったのに、それでもスポーツマンとして生きていこうと思えるのがすごいと思いました。

癌で片足を失ったカナダの青年を見て、「できるかできないか分からない、でもやってみよう、やってみることが重要だ」というところで、できるか分からないけれど、まず挑戦することが大事なんだと思いました。

みんなが励ましてくれたり、応援してくれたりするのは、ボブ・ウィーランドさんのすごさだと思います。自分も勉強するのが辛い時期があって、「なんでこんなことしているんだろう、もうやめたいな、辛いな」と思うときもたくさんあったけれど、家族や先生の支えがあって頑張ったことがありました。だから、何かにまっすぐに取り組めば、どこかでそれを見てくれている人はいるし、諦めずに最後まで挑戦することの大事さを改めて感じました。

（二年）